

地域看護学実習

単位数（時間数）：1 単位（45 時間） 必修/選択：必修 履修年次：4 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・鈴木るり子

科目担当者（職位・氏名）：講師・松岡真紀子、助教・石田知世、助教・磯島実奈

対応DP：人間力 ケア・スピリット 人間の実践的理解 専門的知識・技術とその臨床実践
多職種連携・チームワーク アドボカシー

科目記号：92

■ 授業概要

地域看護活動の場である市町村の保健・福祉推進部門の役割と機能を学習するとともに、地域の健康課題とその支援及び生活と健康に関する社会資源の活用や保健・医療・福祉連携ができるための基本的な能力を養う。

■ 到達目標

1. 地域アセスメント（地域診断）のプロセスを理解し、説明できる。
 - 1) 地域アセスメント（地域診断）のためのモデルの枠組みと情報を集める方法を説明できる。
 - 2) 情報の抽出と解釈ができる。
 - 3) 情報を関連づけて健康課題のアセスメントができる。
2. 地域看護における地域アセスメント（地域診断）の必要性を説明できる。

■ キーワード

地域アセスメント（地域診断）、地区踏査、PDCA サイクル

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

月・日（曜日）	授業内容・授業方法	担当
2024 年 1 クール目 5 月 20 日（月） ～ 5 月 24 日（金） 2 クール目 5 月 27 日（月） ～ 5 月 31 日（金）	<p><実習方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指定された地域のデータベースからの情報をコミュニティ・アズ・パートナーモデルの枠組みを参考に整理する。 2. 予測される健康課題と関連させて地区踏査（地区視診）を実施する。 3. データベースと地区踏査（地区視診）の情報から地域をアセスメントし、健康課題を抽出する。 4. アセスメントで把握した地域の概要及び健康課題について意見交換する。 5. 地域看護における地域アセスメント（地域診断）の必要性についてディスカッションする。 	共同

■ 先行要件

地域看護学概論および地域看護援助論の単位を修得していること。

■ 成績評価方法

グループ記録 60% ディスカッションへの参加 10% 個人記録・レポート 30%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

グループ記録、個人記録・レポートに関してはコメントを付して返却する。

■ 教科書

- ・上野昌江編他（2021）『公衆衛生看護学 第3版』中央法規

■ 参考書・参考資料等

- ・厚生労働統計協会編（2023）『国民衛生の動向 2023/2024』厚生労働統計協会
- ・都筑千景編著（2020）『地域特性がみえてくる地域診断 地域包括支援センターの活動充実を目指して』医歯薬出版
- ・金川克子他編（2011）『地域看護診断 第2版』東京大学出版会

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

実習オリエンテーションで提示します。

■ 担当教員からのメッセージ

看護の対象となる人々がどのような地域で暮らしているかを把握することは重要です。また、公衆衛生看護にとっては、地域アセスメントは個別支援においても地域づくりにおいても基盤となるものです。既存のデータや地区踏査データを分析しながら、地域看護の視点からどんな地域がみえてくるか楽しみにしてほしいと思います。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

実習オリエンテーションで提示します。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

保健師・研究職

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

保健師の実務経験を活かし、専門的で実践的な指導を行っています。